



第 2 号

発行所 大阪市史跡 龍溪禅師墓所
 霊 亀 山 九 島 禅 院
 〒550 大阪市西区本田3丁目4-18
 ☎06-583-2725
 発行人 住 職 奥 田 啓 知 (智證)

枕銭とお念仏

「の、に、く、ち、の、な、い、生、活、を」

昨年未より、愚妻とヨーロッパへ修学旅行に出掛けてきました。この三月三十一日付けで十六年の教師生活にさようならを告げるため、定年後のフルムーン?と洒落たのです。

生まれて初めての海外旅行でしたので、本当に感激しました。ロンドン・パリ・ジュネーブ・ローマ、駆け足の旅行でしたが日本との差異、習慣の違いにともなういろいろありました。とりわけ、水道の水が飲めないことや食事の量の多さ、食事時間の長さ、両替など驚くことばかりでしたが、特に枕銭(チップ)の習慣には考えさせられました。枕銭(チップ)を手掛かりに仏教の考え方、仏教のあり方を考えてみたいと思います。

にもあります。「関西のお客さんは部屋に案内された時に心づけを渡されますが、関東のお客さんは帰り際に渡されます」とは、以前泊まった旅館の仲居さんに聞いた話です。

欧米諸国では、枕銭をはじめとして、トイレまでサービスを受けた謝礼として、支払いとは別に心づけを渡す習慣になっています。心づけの額は各国で異なっていますが、大体、トイレのチップは小銭程度、レストラン・タクシーでは、料金の十パーセント、枕銭(ピローマネー)は一泊につき、日本円で百円程度だそうです。とりわけ、トイレのチップには閉口しました。トイレに行くたびに小銭を準備しなければならぬのは困ったものです。でも、どのトイレも



掃除がゆきとどいており、日本のように落書きもなく、清潔で気持ちよく用が足せました。

さて、枕銭(ピローマネー)とは、朝、メイドのためにを枕(ピロー)の下に置いておくチップのことです。考えてみればお世話になるなら、最初の日に置いておくべきで、後からチップをあげても効果も期待できないし、もううほうだってサービスに差がつけられないのに。一生懸命ベッド・メイクをして、枕銭がなければ、腹もたつのではないかなど。つまらぬことを考えました。

日本においても、特に関西人の心づけは、そうした考えでな

される場合が多いのではないかと
かと思ひます。心づけやチップは、
なぜ渡すのでしょうか。親鸞聖人
(浄土真宗の開祖)は、こんな事を
言っています。——わたしがお念
仏を称えるのは、お浄土に往生
させていただくためではない。お
念仏を称えようと思った瞬間、
もうすでにわたしは救われてい
るのである。わたしたちがお念
仏を称えるのは、そうして救っ
ていただいたことに対する感謝と
報恩のお念仏なのだ、と。

たとえば、誰か他人に裏切られた
時、すぐに出てくる言葉は「こん
畜生!」「あの野郎!」「くたば
ってしまえ!」です。普通の人間
であればそのような時に、その時
「南無阿彌陀仏」とか「南無妙
法蓮華経」といふお題目が逆に
その人の口から出てきたら、その
と自身、非常に素晴らしいこと
ではないでしょうか。
よく現世利益(げんぜりやく)の
宗教といいますが、宗教そのもの
がまさに現世利益で、まさに今
その行為をする

こと自身が大きな利益になっ
ているという、そういう形で行
われるのが宗教なのです。チ
ップ、心づけもこれと同じで、
出した方の利益を求めるとは
間違っています。チップの第一
の目的は感謝なのです。「お世
話になりました」と、お礼の気
持ちはこめて置いてくるのが枕
銭なのです。見えない相手に対
する感謝の気持ち、それに込め
られているのです。何かサービ
スしてもらったために、見返り
を期待してするようなチップは
本来のチップではないのです。
そして、そのような行為が、
仏教でいうところの「布施行
(ふせぎょう)」なのです。

布施とは、見返りを期待しては
いけないのです。相田みつお
さんの詩を最後に載せておき
ます。

あんなに世話を
してやったのに
ろくなあいさつも
ない

あんなに親切に

してあげたのに
あんなに一所懸命
つくしたのに

のに・・・
のに・・・
のに・・・

(のに)が出たときはぐち

檀信徒の皆さまへ

○春の彼岸法要について

別紙ご案内状の如く、春の
彼岸法要を三月廿三日(金)
午後1時より厳修致します。
昨年よりうらばん施餓鬼法要
から墓檀家(当院境内墓地使用
者)の方々にもすべて、ご案内
しております。お施餓鬼は
ご先祖をはじめ諸精霊に感謝
の供養をする法要でもありま
すので、宗旨には関係ありま
せん。振るって回向の申込を
お願い致します。お施餓鬼料

こっちに(のに)がつくと
むこうは
「恩に着せやがって——」
と思う
お互いに「のに」と「ぐち」
のない生活を、この彼岸を契
機に考えていきましよう

現在(平成2年2月1日)
当院の墓地使用者で、住所・
氏名の判明しているお方、二
百八十名(新規使用者は除く)
(のうち、未納入者二十名、
実に九十三%の方から、管理
費をご納入頂きました。未納
入の方々は、ご納入下さいま
すようお願い致します。また
使用者が判明していないお墓
についても、今後とも調査を
続けたいと存じますので、そ
れら墓地(お知らせの紙を貼
っています)について、心当
たりがあれば、当院までお知
らせ下さい。

当院中興第23代栄忠大和尚

33回忌法要執行します

本年は、当院中興第廿三代栄忠大和尚の三十三回忌（冷照忌）に正当します。ご案内いたしましたように、三月二十三日（金）午後一時より、彼岸の法要に先立って厳修いたします。

栄忠大和尚は、弊師弘忠和尚の実父で、明治四十五年から実に四十五年の長きにわたって、当院の住職を勤められました。檀信徒のお方の中にも、ご存じな方もおられると思います。小納、栄忠大和尚については、存じませんので以前、「龍灯」に弊師弘忠和尚が執筆された文章を掲げます。



建仁寺の一字宗の住持である
龍溪大師の遺徳を繼承し
此の地に坐して法を弘め
上人の遺徳を繼承し
此の地に坐して法を弘め
上人の遺徳を繼承し
此の地に坐して法を弘め

姓は奥田、明治二十二年、愛知県中島郡稲沢の農家の二男として生誕、十一歳のとき当院にて省己和尚（当院第二十二代）の弟子となる。二十歳の頃、奈良法隆寺勸学院において勉学（時に沢木興道老師と共に励み、以後遷化まで親交を続けられた）明治四十五年省己和尚の引退に伴い二十三代住職となられ同年十一月五日晋山式執行。
大正六年五月一日西九条墓地廃止により一部当院へ転葬同日大施餓鬼執行、同五月五日松重こと和田重吉氏の発願により安治川の薬師堂移転落

は多少にかかわらずご志納下されれば結構です。

○墓地改革の現状ご報告

当院墓地管理規則・管理費規定の改制定では、ご理解を賜り、有り難く感謝申し上げます。また、出費ご多端の折柄、早速、管理費もご納入下され、お礼申し上げます。

慶法要執行（同日安治川の倉庫の大爆発、死傷者多数の事故あり）。

大正八年五月一日より四日間開山龍溪禪師二百五十年大遠忌を黄檗四十六代大雄猊下請拜の下に執行、昭和二年表裏の土塀改築、昭和九年九月二十一日室戸颱風により大被害、同十年二月十七日、前年の颱風を記念して開山龍溪禪師頭影会を組織（發起人、南木芳太郎氏他郷土史家等多数）当院山門前に「寛文大津波龍溪禪師水定地」（黄檗四十七代直翁猊下書）の記念碑建立。

○新墓碑建立希望者へ

前号でお知らせしましたように、新規造成しました墓地が、若干余りました。古くからのお墓で、建て替え（転改葬）のご希望があれば、ご相談におのりしたいと考えています。詳細は当院までお問い合わせ下さい。

昭和十四年五月四日省己和尚二十五回忌に当たり黄檗四十八代義道猊下請拜の下に一日授戒会執行。

昭和二十年六月一日大東亜戦のために堂宇全焼、同月二十六日爆弾のため山門全焼、同年九月高潮来襲により重要物品流失、昭和二十五年十一月現今の本堂再建さる。

昭和三十三年五月二十日遷化、時に七十歳、在職約四十五年。当院は三百年弱にて現在二十四代まで数えている故五代宣州和尚（宝永五年一七〇八年寂）の三十年の在位を除いては殆んど短期間であ

仏壇はこころの拠りどころ

分家や新世帯でも、お仏壇がいるのでしょうか？

近親に死者がないのでお仏壇はいらないと思うのは大きな間違いです。二男であろうと三男であろうと、順番が違っただけでおなじ親から生まれたのは間違いのないことでしょう。今日この身体があるのは親があってこそ、そして親に繋がるご先祖のたまものです。いつも私たち子孫が幸福になることを願ってくださるご先祖さまに、感謝の心で手を合わせることは、分家、新世帯をかかわらず、まず人間としての生活の第一歩ではないでしょうか。

お仏壇は文字通り、仏さまをお祀りするお屋形で、たんに死んだ人のお位牌を祀るためだけではありません。家の中心の場所に、本尊さまをお迎えして、日常生活の中で忘れがちな感謝の思いと、祖先から今につながる果てしないのちの流れに自分をとり戻し、人生を豊かに生きるための心の拠りどころとなるものです。

その意味でもお仏壇は一家に一つは必ずあるべきものです。もし経済がゆるせば、せめてお掛軸のご本尊をかかげお花などのお供えをして手をあげましょう。



ったので、栄忠和尚が最長期の記録である。
大正、昭和の二代にわたったのであるが、その頃より西大阪方面極度に発展、檀信徒数も千に近い多くの帰依者をえられた。
二十二代省己和尚の厳格な教育の下に苦勞され、特に読

経においては師匠にまけず劣らずの美声の下に宗門においても永く忘れられないことである。
弊師弘忠和尚も、父親譲りの美声の持ち主で、機嫌がよければ、お檀家さん宅で「やしの実」やイタリアのカンツオーネを歌っていました。

巨編集栄依記

○栄忠大和尚の三十三回忌にあたって、つくづく年忌法要の大変さを知りました。年忌法要を勤める施主さんのご苦勞が判った次第です。これからも、今まで以上精一杯読経をしなければと、気持ち新たにしました。
○昨年の春のお彼岸では、腹話術で法話のまねごとをしました。多忙なため、腹話術からは遠ざかり、人形のピコちゃんも、袋をかぶったまま、部屋の片隅で寂しそうです。
退職後、腹話術の研究会に復帰、またの機会に皆様にご紹介できると思います。

— 墓碑・石材のご用命は！ —

●九島禅院指定業者●

新 藤 商 店

☎552 大阪市港区南市岡2丁目6番16号
TEL (06) 583-1496

先代和尚からの当院境内墓地の指定業者です